

(公財)大学コンソーシアム京都	中期経営計画 (平成27年度～平成29年度)
-----------------	---------------------------

### 1 「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る各団体の「今後の方向性(存続, 自律化, 解散及び統合)」と「目標年度」を記載する。団体経営の長期的な目標であり, 「中期経営計画」はこれらを実現するための工程表である。

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

### 2 「今後の方向性」に向けた基本的方針

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る各団体の「今後の方向性」を実現するため, 業務面や財務面等についての基本的な方針を定める。「今後の方向性」が「自律化」の団体については, 「目標年度」までの方針となる。

業務面	「京都地域における大学間連携事業の推進」, 「加盟校の教育の質向上の追求支援」, 「「大学都市」京都, 地域の発展と活性化への貢献」を掲げて, 一層の大学振興に取り組む。
財務面	適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し, 財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。
組織面	本財団がこれまで培ってきた「大学, 行政, 産業界が協力して, 大学教育研究活動を向上させ, これを地域社会と産業界へと還元していく」という設立の理念を一層前進させるため, 公益認定基準を遵守した公正な運営に努めつつも, 責任ある意思決定の仕組を効率化していく。
その他	特になし

**3基本的方針を実現するための具体的取組(3年間の計画期間中における具体的取組)**

- ①「2「今後の方向性」に向けた基本的方針」を実現するための具体的取組を記載する。  
 ②取組ごとに、各年度の目標となる指標及び目標値を設定する。  
 ③計画期間の最終年度(平成29年度)の目標値が中期経営計画全体の目標値となる。

**(1)業務に関する取組**

**目標1「京都地域における大学間連携事業の推進」**

<b>取組内容</b>	<p>(公財)大学コンソーシアム京都は、京都地域の大学間連携と相互協力を図り、加盟大学・短期大学の教育・学術研究水準向上とその成果の地域社会、産業界への還元、また、地域社会、行政及び産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化に努め、京都地域を中心とした高等教育の発展と社会をリードする人材の育成を目指している。第4ステージプラン(2014年度から2018年度の中期計画)において、「加盟大学・短期大学ならびにステークホルダーのニーズ・期待への対応」、「質の向上を基本とした「事業の選択と集中」の実施」に留意して事業に取り組み、本財団ならではの大学連携により、財団の基幹事業である単位互換事業、インターンシップ事業をはじめとする事業を着実に推進する。</p>					
<b>○指標1</b>	京(みやこ)カレッジ出願者延数					
<b>採用理由</b>	本財団の基幹事業である京カレッジ出願者数は、産官学地域連携の基礎となるため					
<b>目標値</b>	<b>H25(実績)</b>	<b>H26(見込)</b>	<b>H27</b>	<b>H28</b>	<b>H29</b>	(単位:人)
	1,114	1,500	1,500	1,500	1,500	
<b>実現方法</b>	<p>京カレッジは「大学のまち京都」ならではの地域特性や優位性を活かし、単位互換事業を活用した、大学の知的資源を地域社会に還元する生涯学習事業として展開している。単位取得が可能な大学講義のほか、市民教養講座や京都力養成コースなどは大学の知を身近に感じてもらえる公開講座群である。特に京都力養成コースでは、財団から科目開設補助金を提供することで開講講座の充実を図っており、提供科目すべてに出願を得て、出願者は400名を超える。また、財団ならではの大学間連携により、平成26年度から新たに「幼保資格取得特例措置」に関する科目の提供を実施しており、延べ数で800名以上の出願を得ている。第4ステージプランでは「科目の整理」を掲げており、平成26年の検討期間を経て、平成27年度以降に科目の特色化や広報活動の工夫を図ることで、出願者の確保をめざす。</p>					
<b>○指標2</b>	インターンシップ(プログレスコース)受講者数, 受入団体・企業数					
<b>採用理由</b>	財団の行うインターンシップとして優位性のある本コースへの参加数は、プログラムの質向上に向けた取組がどの程度浸透しているかの指標となるため					
<b>目標値</b>	<b>H25(実績)</b>	<b>H26(見込)</b>	<b>H27(目標)</b>	<b>H28(目標)</b>	<b>H29(目標)</b>	(単位:人)
	45	65	65	65	65	
	7	-	9	9	9	(単位:社)
<b>実現方法</b>	<p>産官学地域連携による教育プログラムとして、一層機能効果を高めることを目標とし、事業開始10周年を機に策定した今後の長期的展望である①専門性との関わりを重視した実習を強化し、教育効果並びに受入先への貢献度の向上、②事業の効果を広く加盟大学に還元する仕組み作り、③学生主体のプログラム作りに重点を置いた事業を行う。</p> <p>平成23年度以降は、登録団体数などの一律的な増加を目指すのではなく、継続受入先の質的向上等に重点を置き事業を展開している。</p> <p>プログレスコースは、受入先が提示するプロジェクトベースであり、インターカレッジで行う財団のインターンシップ・プログラムとしても特色ある取組をしている。その成果を、受入先となる企業・団体や大学、学生に広く広報することで、さらなる充実を目指す。</p>					

<b>(公財)大学コンソーシアム京都</b>	<b>中期経営計画 (平成27年度～平成29年度)</b>
------------------------	-----------------------------------

<b>目標2 「キャンパスプラザ京都の利用促進(講義室, 演習室, 会議室等の施設貸出)」</b>						
<b>取組内容</b>	<p>キャンパスプラザ京都の指定管理者として、京都地域の大学・短期大学等が加盟する財団として、市民と大学の交流拠点として求められるサービスを、最適なコストで提供できるように、更なる効果的な運用を行う。</p> <p>京都駅前の交通至便な立地条件を活かし、大学関係者の利用はもとより、大学休暇期間には一般の利用者を確保できるよう広報を行い、年間を通して安定した稼働率の維持と施設使用料を確保する。</p> <p>キャンパスプラザ京都は平成12年の開館から平成26年で15年を迎えた。施設や講義室等の機器も老朽化してきており、改修やリプレイスが必要となってきた。これら改善を適正な時期に行い、利用者の利便性や快適性を図ることで、利用促進をめざす。</p>					
<b>○指標</b>	施設の使用料					
<b>採用理由</b>	キャンパスプラザ京都の利用促進の成果を的確に表すため					
<b>目標値</b>	<b>H25(実績)</b>	<b>H26(見込)</b>	<b>H27(目標)</b>	<b>H28(目標)</b>	<b>H29(目標)</b>	(単位：千円)
	98,934	94,308	99,500	99,750	100,000	
<b>実現方法</b>	施設改修、演習室の新設及び機器リプレイスにより利用者の利便性の向上を図る。					

**(2)財務に関する取組**

<b>目標 「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財務運営を図る。」</b>						
<b>取組内容</b>	<p>収入については、財団の経常収益は会費収入と事業収入を基本としている。会費収入については、ほぼ現状維持にあるが、事業収入の減少が目立っている。事業収入の減少は事業の見直し・廃止が主要な要因であるが、継続している各事業における受講者・参加者数が減少傾向にあることもその要因となっている。近年、事業の拡大よりも質の充実に向けた見直しを進めていることもあるが、収入について自然増が望めない現状にある。</p> <p>中長期的には増収を見込むことが困難な状況下では、適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し、財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。</p>					
<b>○指標</b>	収入合計、支出合計 (単位：千円)					
<b>目標値</b>	<b>項目</b>	<b>H25(実績)</b>	<b>H26(見込)</b>	<b>H27</b>	<b>H28</b>	<b>H29</b>
	収入合計	488,853	404,625	435,967	380,147	374,820
	支出合計	385,206	404,625	426,539	375,234	374,601

## (3)組織に関する取組

## 目標「事業展開に合わせた、効率的な人員配置」

取組内容	財団職員としての資質向上を目的とした、財団主催の研修への参加促進を図るとともに、外部研修会への参加助成の検討を行う。 さらに、職員の短期出向制度などを設け、業務量の分散、軽減、効率化を図る。					
○指標	常勤職員数（役員は除く）					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位：人)
	42	42	42	42	42	